

## アマダイ通信NO.42

(Tile fish network letter)

04年蝶舞う季節に

知人・友人各位


緑の野辺に、街角に、花咲き、蝶舞い、鳥歌う。田圃に水も張られ、瑞穂の国の瑞々しい季節到来。浮島から飛び立つ感じで成田を出ると十数時間で乾きの世界、アラブ。丸腰のNGOが拉致され、“人道支援”の自衛隊は“非戦闘地域”で壕に籠もり、米軍はイラク全体を敵に回したかのよう。何やら“ベトナム”を髣髴とさせます。せっかく上向きかけた景気に水を差さぬよう、平和に行きたいものですが、洋の南北東西に走る諸国民の深い断裂をそのままに、世界と日本の平和はあるのでしょうか。

### “余命2年”から1年、どうにか？今年も花を愛でる

“願わくば桜の花の木の下で”と思った訳ではないが、昨年の花見は大腸がんの病床から外出許可を貰い、恐る恐る？ノンアルコールビールをチビリチビリ。5次の抗癌剤集中治療も無事終え、今年は晴れて“桜色”。調子に乗り花見酒を飲み過ぎたか、二ヶ月振りの診察で腫瘍マーカーもCT画像も異常なし、リンパ節の腫れもないが、肝臓の数値が少し悪いので休肝日を作るようにとの指導。折から国会にかつての“駒場共闘”のマドンナ、社民党政調会長の阿部知子代議士を訪ねると、駒場で同期の医師が浴びるように酒を飲み、肝硬変と静脈瘤破裂で亡くなったのよ、知ってる？とのこと。

主治医の阿川先生が「なかなか休肝日を作れなくて」と弱音を吐くものだから、お医者さんがそれならと高をくくっていたのだが？その阿川先生に休肝日を宣告されたからには、どうにかして休肝日を作らなくては、癌を克復しても他の病で命を失うことになる。日本人の二分の一が癌に罹り、三分の一が癌で死に、差し引き六分の一は癌以外で命を落とすことになるのだが、さてどちらが良いのか。いずれにしる肝臓にダメージを与えれば、癌にも取り付かれ易いは道理。そんなことと笑われそうだがどうやって休肝日を作るか、酒好きにはそれが問題だ。生きるべきか、飲むべきか？

幸い調子がいいので民間療法やサプリメントの類の助けを借りずに済んでいるが、調子のいい時からやってこそ効くのかという気がしない訳でもない。先日も“調子良いようだけどこのままだと2ヶ月でガックリ来るよ”とサプリメントを勧められる。二ヶ月と言われ一瞬ギクッと来るが、あれからもう二ヶ月近く。どっこい元気に生きてるぜ、と思うと気分がいい。それにしても史上最強のメシマコブだとか、不治の病からこのアガリクスで生還など、うまい話が多過ぎる。

サプリメントとは健康補助食品、機能性食品で健康維持に不可欠なビタミン、ミネラル、繊維などを補強する。一般的には食物中に含まれ、バランスの取れた食事をしていれば自然に摂取、敢て摂る必要はない。野菜や海草、茸、魚、雑穀、豆類の多い食事を心掛ければいい。野菜のお浸しや炊き合わせに、ジュン菜のお椀、の一夜干し、若布と胡瓜や菊の酢の物と茸のホイル焼きに牛蒡を添えた鯛のカプト煮で一杯やって、お新香に玄米おこわか茶そばで締める。ちょっと物足りない時は場所を変えてナッツをつまみに赤ワイン一杯。これが理想の飲食生活ということになる。食べ物の嗜好はいいのだが、大腸がんという最悪の結果になったのは飲み過ぎとそれに伴う過食、酒の肴の食べ過ぎか。

## 人は生を生き、共に死を生きる

癌細胞は20代から誰の体内にも巣食い、健康な細胞がその成長を抑えているだけで、ストレスや体力の低下で免疫力が衰えた時に異常成長し、終には宿主の死と共に自らの生にも終止符を打つと言う。人と癌は共に生き、共に死ぬ。言葉を換えれば人は日々生を生き、死をも生きている。

いずれにしる人間は死ぬ。とすれば死ぬこと自体ではなく、いつ死ぬか、何処でどの様に死ぬか、どう生きるかが問題になるだけだ。無神論者<sup>🐟</sup>にその先はない。そしてただ生きることに汲々とするのではなく、己のこの世での生を価値あるものと思えば、後に続く世代にもそうあって欲しいし、そのためにできるだけのことをしたいと願うだけである。生き様は又、死に様でもあるから。

思えば人間も地球にとって癌のようなもの。勝手に増殖し環境を破壊する鬼っ子ではあるが、悲しいかな、癌細胞ほどの力はない。人間が壊すことができるのは精々人間の居住環境としての地球だけ、上っ面だけで地球そのものではない。三鷹寮同期の松井孝典東大教授(地球惑星間物理)によれば、これまでの地球の歴史は43億年ほど。寿命の半分を生きたことになるという。人の歴史の何と短いことか。そして地球の寿命ほどの長きに渡って、この地上に人類が存続することも叶わない。己の愚かな行動によって人類が地上から消えても、地球は長いこと回り続けるだろう。人間を地上に置いてやろうと地球が思う限り、人類が平和に地球上で生き続けることができるようにしたいものである。

## 今は戦国？平和ボケで何が悪い！

拉致した者が本当にアメリカを敵として闘う者であれば危害を加えることはないだろうと思っていたが、イラクで拉致された日本の民間人が相次いで解放された。ボランティアでイラク国民を支援しようとする者、戦場の事実を報道しようとする者を殺害するのは闘う側の権威を貶め、日本国民全体、世界の世論を敵に回すことになるからである。


それにしてもアメリカは世界を二つに割って対立を煽り、一方を攻撃するのが好きである。キューバ危機、ベトナム、パレスティナ、アフガニスタン、イラク・イラン。根は様々であり、時には対立する相手、組む相手をも取り替えたりしながら、いつのまにか敵役を演じている。演じるのが好きなのか、それとも何か訳ありなのか？

移民国家、民族の坩堝としてのアメリカは人種間の差別・階層格差も激しく、共通の外敵を作ることで国家としての纏まりを図るのだと言う人もいる。とすれば経済のグローバル化・IT化で所得格差、富裕層への富の集中が一層進む現在、外に敵を作り国民の統合を図る必要が更に強い。そのために再建の明確な見通しもないままフセインを倒したが、石油収入による“配給”で食べるイラク国民に最低限の配給すら与えられず、全体を敵に回し、フセインより遥か以前、群雄割拠の“戦国”イラクに戻るかのようである。

戦国といえは年末年始に旅したエジプトでは私服の下に小銃を吊るした警官がバスに乗り込み、観光地の至る所で自動小銃の警官が目を光らせ、アレキサンドリアではパトカーがバスを先導する。フィリピンでも武装した警備員がホテルやスーパーの入り口で客をチェックし、ネグロスの山中ではジープに乗った武装警官の護衛が付く。“平和ボケ”した日本人には大袈裟に思えるが、マニラのマカティのスーパーで同行者がナイフを突きつけられ4万円盗られる。“平和ボケ”でいられる“社会主義国”日本は“有難い”と思う。

## 緑と水と砂漠と

権力の最後の砦が警察、裁判所、軍隊等の暴力装置とはいえ、日常的に剥き出しの暴力が国民を威嚇するというのは秩序維持の方法としては最低だ。それは権力基盤の脆弱な証であり、国民の自由な活動を妨げる。あれほど国民運動として盛り上がった60年安保、学生運動が先鋭化し、自衛隊を引き出せば“勝利だ”とする者もいた70年安保においても、日本の自衛隊は出動することはなかった。

今では剥き出しの暴力でしか国民の“統合”を演出できないエジプトであるが、紀元前には数千年の長きに亘って繁栄を謳歌し、燦然と輝く文明を築いた。その輝きの残光を求め、はカイロ郊外ギザのピラミッドから、アレキサンドリアへと列車で足を伸ばす。水不足なのか朝のカイロ駅のキレイとはいえないトイレの洗面で顔を洗い、歯磨きをする者が沢山いる。地中海に近づくにつれ車窓には緑が増え、農耕、牧畜が盛んな様がよくわかる。アレキサンドリアに着く頃には雨まで歓迎してくれる。

デルタを抜けナイルを上ると川に沿って細い緑が続く。ナイルの東岸生者の町メンフィスにはナツメヤシが背伸びし、西岸の死者の町サッカラの河岸段丘の上にはピラミッドの群れが連なる。古代も今も人間が住み、耕すことができるのはこのナイルの河原だけ、氾濫原だけが緑であとは砂漠。そこに今では7千万近くの間人が生きている。

## 氾濫期雇用対策 = ピラミッド構築、最初のケインジアン = ファラオ

ピラミッドの前にはTシャツや絵葉書、ストールなどを押し売りする者、「バグシーシー」と手を差し出し“喜捨”を求める者が並ぶ。ナイルの氾濫期、農閑期の農民の雇用対策の産物でもあったピラミッドが現代人の雇用対策としても機能している。大公共事業を実施した最初のケインジアン、古代の王ファラオ、偉大な先祖の恩恵に今も浴す末裔だが、墓泥棒の現在形だという押し売り土産物屋、観光ラクダの遣い手も商売熱心だ。観光客の安全を専らとする筈の警官も一緒に写真を撮れと言っては金を要求する。

エジプトの産業で思いつくのは綿花、小麦、ナツメヤシ、オレンジなどの農業、繊維、敷物などの手工芸、石油、観光くらい。先祖の知恵に頼る生産性の低い観光地の“押し売り”が成り立つようでは、賃金は低く失業者も多い。至る所自動小銃の警官が立ち、パトカーが観光バスを先導しても、警官もアルバイトに忙しいのではいざという時役に立たない。日本人が一番戸惑うチップだが、トイレが半エジプトポンド(10円)、ホテルの枕銭が1米ドル。狭く汚れたトイレでも要求される。物売りのガイドブックが千円、世界中何処へ行っても日本人と見ると千円と呼びかけられる。カイロの平均的なサラリーマンの月給は1万5千円、地方都市は1万円ほど。11時に朝食、昼食は5時、11時頃夕食を食べて、仕事は9時~4時。昼食を食べて夕寝し、日に5回礼拝するのが一日の生活という。

回教国なので一般にアルコールは飲まず、観光客の立ち寄るレストランに酒はあるが、種類も少なく高い。列車の車内販売でビールを買う。5ドル出すが釣りが返らない。良く見るとノンアルコールビールとある。5ドルでは高すぎる！金返せっ！と連れが英語で怒鳴るが売り子は知らん振り。ガイドが間に入って5ドル戻る。本当は5ポンド(百円)らしい。中華料理屋で白ワインを注文すると白酒(パイチュー)が出る。大きなコップの底にわずかに入って5ドル、ハイネッケンのウルトラ小瓶が4ドルで、白酒2杯とビール2本でいい気分。ナイルで船を漕ぐ。

## 砂漠のホテルにも手動ウォシュレット

日本トイレ協会会員の●としてはエジプトのトイレも気になる。ホテルやツアー客の利用するレストラン、ディナークルーズ船のトイレは水洗で大体キレイに手入れされている。壁の水栓から金属製の蛇腹のホースが伸び、先端にノズルとハンドルがついている。何だろうと思ったが、手動のウォシュレットである。冷たい水がお尻に気持ちいい。列車の便器の奥まった所にも上向きに細い金属のノズルが突き出ている。何かと思って靴で踏んづけたらくにゃっと曲がってしまったが、あれもそうだったのだろう。

シナイ半島の砂漠をバスで走る。所々にガソリンスタンドがあり、小さな売店が併設され、売店のトイレで用を足すようになっているが、余りキレイとは言えない。プライベートビーチで泳いだリゾートホテルも、初日の出を拝んだシナイ山の麓の、修道院で有名なセントカテリーナのホテルも、トイレはキレイだったが電気温水器でバスタブも小さく、一度お湯を使うと、しばらく水しか出ない。

シナイの水はどこから来るのか聞くと、ナイルの水だという。遙か紅海を渡ってパイプラインで運ばれる。シナイ半島は中東戦争でイスラエルに一時期占領された。イスラエルとの前線なので軍隊の駐屯地が点在する。道路も所々封鎖され銃を持った兵士の検問を受ける。いざ戦争となれば水のパイプラインも爆撃され、飲む水もなくなるのだ。

## ジャバ行きさんと野球拳

マニラ行きのジャンボの機内は若いフィリピン娘で一杯だ。マニラ空港の入国手続きと一緒に並ぶ。“水海道の苺”などのお土産をぶら下げている。好奇心旺盛な●はさっそくインタビュー。彼女らはダンサーやミュージシャンの芸能ビザで日本に来て、ビザの期限切れでお国に帰るところらしい。長野からという娘達に新幹線で東京経由成田へ来たの？と聞くと、ワゴン車で直接長野から成田まで連れて来られてたという。

厳冬の日本から厚着で来ると、冷房が効いていてもマニラ空港は暑い。暑い暑い！脱がなくっちゃ！と●が言うと、フィリピン娘が拳を突き出す。乗りのいい娘だがここはフィリピン、合わせなくては。●も拳を突き出す。きっと長野で野球拳を毎晩やって、座を盛り上げていたのだろう。野球拳でも芸能ビザを取れるのだ？！

脇から●よりも皺の多い小父さんが口をはさむ。こいつらも不景気で昔みたいに稼げないんだよ。マニラの専門学校で金払って勉強してから来るんだよ。それでも最近は働き口が少なくて。この筋の仕事でよくマニラに来るらしい。朴訥な田舎の親父という感じで浮いた商売をしているようには見えないが、何かいい話ないですかね？と、筋違いの●に聞いてくる。この方面も深刻な不景気のようなのである。

## バーンサーラックへのカンパ15万円を突破！

京美人の藤井由美さんがタイ北部チェンライ郊外の農村で主催する就学支援施設、バーンサーラック（愛を編む家）への支援を前号でお願いしたところ、15万円以上のカンパをいただきました。中国への植樹で一緒させていただいた伊丹の三船義則、団塊ネットの飛驒の坂口和信、設計事務所の野上剛志、顧問先の因幡電機産業の中沢文雄、能代高校同期の横田（旧姓腰山）真理子、三鷹寮OBの桜井尚武（S40入寮）、亀石幸夫（S45入寮）、呼掛人になっていただいた渡辺高峯 JR 東海副社長の皆さん、ありがとうございました。

前号登場のバーンサンラックの「長男坊」しんちゃんはジャパ行きさんと京都のヤクザとの子供です。タイの北部は気候もよく、牧歌的で、食べる物には困らず、ゆったり時間の流れる、高度経済成長で日本人が失ったものがたっぷり残っている、いい所です。しかし経済が「発展」すると、かつての日本がそうだったように何かと物入りで現金収入が必要になり、バンコックに出稼ぎに行く若い娘も出てきます。そこで日本に行くともっといい仕事があるよと囁かれます。あとはタイ娘もフィリピンの“芸人”も同じです。売春させられたり、ヤクザの子を孕む娘もいます。チェンライ県だけで千人以上の日本人との混血児がいるという報道もあります。そうして多少のお金を貯めたり、不法滞在で強制送還されたり、中にはエイズを患って故郷に帰っても、職もなく身持ちの悪い女と後指指され、今は人の親となったタイ娘に安定した生活は難しい。バンコクで止まっても事情は同じ、子供を学校に通わせることもできない親も出ます。

緑の地球ネットワークの中国、大同の植樹ツアーで知り合った藤井さんですが、市民運動などでそんなことを知るにつれ、大阪の幼稚園の先生では物足りなくなったのでしょうか。京都のマンションを損切りして売り払い、日本を飛び出してしまいました。今では土間に胡坐で座り、手でご飯を食べ、タイ語を器用に操り、旅行者を案内したり、他のNPOから多少の支援を得たり、日本に彼女の応援団もできて、何人もの子供を食べさせ学校に通わせる、タイのお母さんに変身してしまったのです。そんなタイの“お母さん”の応援を一緒にお願いします。

戦後一時期、日本でも美空ひばりが「越後獅子の歌」で“わたしゃみなしご街道育ち”と歌い、「東京キッド」で都会の孤児のマンホール生活を活写したように、学校に行けない子供が巷に溢れていました。それが欧米などの篤志家の寄付や慈善事業、経済事情の改善で劇的に解消されました。“失われた十年”で衰えたりとは言え、まだ世界2位のGDPを誇り、一人当たり国民所得も世界有数の日本です。恩返しできるのはとても素敵なことです。今回いただいたお金は6月か7月に激励がてら現地に行って渡したいと思っています。土、日をはさんで2、3泊くらいで行ってみたいと思います。一緒に行ける方がおりましたらご連絡ください。慈善事業を自分で始めるのは大変ですが、応援するのは🍀にも、あなたにもそんなに難しくありません。藤井さんと一緒にタイを“楽しむ”こともできます。

尚、バーンサンラックへのカンパは下記口座へお願いします。

郵便振替口座番号 00130 - 7 - 409212 口座名称 バーンサンラック応援支隊

## 去る旦那あれば戻る旦那あり、“幼馴染”もスポンサーに

情報仲介、営業顧問業もようやく軌道に乗り掛つつある🍀ですが、成果が出るのに時間がかかったり、余りこの商売に向かない分野、景気悪化でコンサルタント料はどうもということで契約を止める顧問先も間々あるのですが、また是非というところもあります。円形側溝を中心とした大阪の土木資材の商社ソイル工業(株)には開業初期の頃、杉江社長がかつての日大全共闘の一之瀬透君の学友ということでご紹介いただき、関西電力舞鶴火力発電所の現場などでお手伝いさせていただきました。スポンサーの少ない頃だったので大変助かりました。しばらくご縁が切れていましたが、もう一度力を貸して欲しいということで、再度営業顧問にさせていただきました、宜しく願いいたします。

建築関係のメーカー主体のこれまでの分野と大分違いますが、乗り換えソフトのジョルダン(株)に新しくスポンサーになっていただきました。S43年東大理 入学の佐藤社長とは学内のアルバイト団体、東大学力増進会で長く一緒にアルバイトをした仲で、謂わば幼馴染のようなもの。ジョルダンは年商10億ちょっとで大証のヘラクレスに株を公開、商品の乗り換えソフトは多くのパソコンに組み込まれ、普通名詞化するくらい普及しています。四苦八苦してようやく本通信をパソコンで作るのが関の山の●はITに詳しくありませんが、ジョルダンの携帯の課金システムとあの会社のソフトを組み合わせたら面白いビジネスになるとか、色々考えたりしています。三鷹寮同期で東芝で駅前探検倶楽部を担当する岩木雅汎君に電話したら敵の味方になるの？と言われましたが、大会社では年度で黒字化したとは言え、10億円ちょっとの売り上げではまだ“商売”とは言えないでしょうから、いっそ一緒になるというのは如何でしょうか。

又、三鷹寮同期で住友銀行OBの御沓幸徳君が役員の設定ゼネコン東洋熱工業の関連会社、アイソテック(株)の営業顧問にもさせていただきます。病院の無菌室、手術室のメーカーで、カプセル型の無菌室はサースで脚光を浴びました。こちらもお祈りいたします。

### 留学生支援・東京銀杏会・加藤登紀子チャリティー・コンサート

東京大学には教育・研究のため約2千名の留学生がいますが、日本での生活上の様々な問題に苦労しています。同窓会の東京銀杏会としては、東京大学外国人留学生後援会(会長:佐々木毅総長)への募金や日本文化紹介活動など会員の皆様にご協力頂いていますが、このたびは、東大三鷹クラブのお知恵を拝借、同クラブ特別会員の「お登紀さん」こと加藤登紀子さんのご協力で、留学生支援ランチタイム・コンサートを開催することになりました。収益は、東京銀杏会「外国人留学生と交流する会」及び東京大学外国人留学生後援会へ寄付します。

場所は、トキコクラブ経営の表参道のロシア料理店「テアトロ・スングリー・青山」、ゴージャスな雰囲気の中でお登紀さんのトーク&ソングとロシア料理を堪能できます。会費は、加藤登紀子さんのご協力で、思い切った値段としており、特にご家族・ご友人同伴には割安に設定しておりますので、連休中ですがお誘い合いの上、奮ってご参加ください。

日時:5月1日(土曜) 13時(開場12時半)~15時

場所:テアトロ・スングリー・青山 電話03-3475-6648

(地下鉄銀座線・千代田線表参道駅A3出口2分)

会費:一人1万2千円、二人より8千円(会員・非会員問わず)

食事と飲物(アルコール又はソフト2ドリンク代金含む)

定員:100名(定員を超えない限り特にご連絡しません)

申込み:東京銀杏会事務局 電話:03-5804-3875 Fax:03-5804-3876

メール:[Bunshitsu2@adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:Bunshitsu2@adm.u-tokyo.ac.jp)

プログラム 1.開場・受付:12:30

2.開会・挨拶:13:00 東京銀杏会代表他

3.食事:13:00 ロシア料理・飲物

4.開演:13:45~14:45 加藤登紀子 トーク&ソング

登紀子さんの独唱や、みんなとの合唱などお楽しみ

## 農業・農政のゆくえ・・・東大三鷹クラブ54回定例講演会ご案内

今回は、東京大学大学院農学生命科学研究科教授（農業経済学）で活躍の生源寺眞一氏（45年入寮）に講演をお願いしました。昭和26年愛知県生れ、旭丘高校卒、45年三鷹寮入寮、51年農学部農業経済学科卒、同年農林省農事試験場研究員、北海道農業試験場研究員を経て62年東京大学農学部助教授。平成8年より現職。この間平成元年ケンブリッジ大学客員研究員。主な著作に「農地の経済分析」「農業経済学」（共著）「酪農生産の基礎構造」（共編著）「こころ豊かなれ日本農業新論」（共著）「現代農業政策の経済分析」「アンチ急進派の農政改革論」「英国のカントリーサイド」（監訳）「農政大改革」「地殻変動下のコメ政策」（編著）「21世紀日本農業の基礎構造」（編著）「新しい米政策と農業・農村ビジョン」。現在、日本フードシステム学会会長、食料・農業・農村政策審議会委員、国土審議会委員、葉たばこ審議会委員などの要職にもつかれ、活躍されています。

生源寺さんと初めて顔を合わせたのは今から34年前の春。当時、私は大阪から出てきた田舎者で、大学に愚かな教養課程というものがあること、また東大に駒場というキャンパスがあることも知らず、さてどこに住んだものやらと思いながら駒場に入学手続きに行った際、正門前で「三鷹寮生募集」の机が出ているのを発見、これ幸いと入寮手続きをしました。入寮に際しては寮委員会の面接があり、ゲバラ服をまとった寮委員長（なぜかあだ名はデロリンマン）の面接を受け合格。三鷹寮は大学紛争・入試中止の翌年で寮生は少なく、猛者の先輩達の一部にも倦怠感が漂い、そこに少し醒めた新入生が多数入寮という状況でした。その中で生源寺さんは目立つ存在で、寮委員長と同じような戦闘服、理論家で「できる奴」、そして「真面目に深く悩んでいる奴」という人間性を感じさせ、入寮して間もない6月の寮委員長選挙で我々は生源寺さんを委員長に推しました。しかし彼は固辞、程なく寮を去りました。なぜ三鷹寮を去ったのか？ 1, 2年後、2~3人で板橋区の6畳一間（もうちょっと広かったかも）のボロアパートに彼を訪ねたのですが、この時現夫人とお子さんがすでにおられ、貧乏生活の中、学究の徒としての道を歩み始めていました。

農薬、BSE、鳥インフルエンザ問題あるいは米の減反政策という食品についての安全性や食料自給率などの食料安全保障が大きな問題となっている今日この頃、日本の農業・農政が進むべき道について、斯界の第一人者である生源寺さんに語ってもらうとともに、身近な問題でもあることから、会員の皆様から多くの意見、質問を頂戴できればと思う次第です。（45年入寮長谷川寿《ニチレイ執行役員》記）

日 時 平成16年5月18日（火）18時30分～21時

会 場 学士会館本館320号室（区神田錦町3-28 TEL:03-3292-5931）

会 費 5,000円（会場費、夕食・ビール代、講師料、通信費等込み）

定 員 100名（先着順、定員を超えない限り特に連絡はいたしません）

二次会を予定しています（約3,000円、近くの中国料理三幸園）

申込先 平賀俊行 FAX 03-5256-0458 TEL 03-5256-0455 (株)国際研修サービス

干場革治 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182 (有)ティエフネットワーク

e-mail: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp,

長谷川寿（45年入寮） FAX: 03-3248-2129 (株)ニチレイ

e-mail: hasegawah@nichirei.co.jp

## 東大三鷹寮40・41年合同会(7回)のご案内

今年は例年と比べて桜が早く咲いたのでお花見の予定も狂ってしまいましたが、皆様お元気に御活躍のことと思います。さて、昨年6月6日に開かれた第6回の40年・41年合同会は、40年32名・41年11名合計43名が参加し、今までで一番盛り上がったような気がします。それから早1年を経過しました。そこで、旧交を暖めるべく今回も40年会と41年会を合同で下記のとおり行うことにしましたので奮って御参加下さい。場所は例年と同じです。

私の息子は自分の高校・大学の同窓会にはまったく興味を示しません、それは年齢、社会・会社のなかで置かれた位置、若者の風潮等のためかなと思いますが、私自身は、この年になりますと、たまには昔の友人の話を無性に聞いてみたくなります。

初めて参加される方も楽な気持ちで足を運んでみて下さい。(遠藤)

大腸がんを手術して1年経過しましたが、週末“桜街道”を走り、利根源流の春スキーと手打ちそば、地酒を楽しんでいます。子育ても終わり、経済的にも時間的にも多少余裕ができ、気がつけば“第二の青春”期? 気がかりは健康ですが、三鷹寮には名医も多数。経済界でもこの春、日本郵船の宮原耕治さん、住友精密の神永晋さんの同期会常連が新社長に。気のおけない三鷹寮のネットワークに、あなたも参加してみませんか?(干場)

なお、出欠の御返事は同封の葉書で遠藤(40年)、干場(41年)まで、それぞれ御連絡下さるようお願いいたします。

日 時	6月4日(金) 午後6時
場 所	トップ オブ ザ スクエア 宴 (千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア23階 地下鉄大手町駅下車 電話 3217-0779)
会 費	1万円(十連絡費1000円)
参 考	<u>セキュリティシステムが強化されましたので、1階の受付に立寄り、係りの人の指示に従ってください。</u>
申込み	案内状を失くされたは干場迄(前頁又は封筒記載)

## 大学の独立行政法人化と同窓会活動

国立大学の独立行政法人化に伴い、OBのネットワーク化、同窓会の組織化に大学も力を入れ出したようです。東大は医学部の鉄門会、理学部、工学部の学科毎の同窓会、経済学部の丁友会、三鷹寮の三鷹クラブなど単位ごとの同窓会はありましたが、全学のものではありませんでした。慶応大学の三田会など私学には強固な同窓会を持つところも多いのですが、群れることへの銜い、与える影響への配慮もあったと思います。特に法学部は大教室での授業ばかりで、ゼミもクラスもなかったもので、纏まりようもありません。

ところが、独法化に伴い社会との多様な接点を求められ、先ずはOBとの関係強化をということになったようです。学部、学科、寮などの同窓会を糾合して一大連合組織を作るというのも合理的な方針だと思いますが、取り敢えず作られつつある地域同窓会を強化して全学同窓会連合をという方針で、三鷹クラブはここではオブザーバー会員です。

今回、留学生支援ということもあり、東京銀杏会主催のお登紀さんのコンサートの仲介の労を取り、当日の案内もさせていただきました。会員以外の方も奮ってご参加ください。